

ゴミ減量やリサイクルを促進するため、  
国や地域によつては、リサイクルできない残  
飯や紙、プラスチック容器などの一般家庭  
ゴミの回収を有料化している。だが、税金と  
してゴミ処理代を既に支払っている一般消費  
者に、更なる負担を強いるよりは、ゴミの元  
たる商品販売で利益を上げている企業に、努  
力を求めるべきではないだろうか。  
確かに、ゴミが環境に負担を与える以上、  
ゴミを捨てることには本来お金がかかるもの  
だという、ゴミ有料化の論理には納得できる  
部分もある。有料化すれば、消費者も注意深  
くゴミの分別を行うようになるかもしれない  
しかし、消費者は税金として既に市町村に費  
用を支払っている。それに、負担が重くなれ  
ば不法投棄も増えるだろう。よつて、ゴミ問  
題についての責任は、ゴミの量に比例する利  
益を出している事業者負担とすべきだ。  
ゴミの有料化は、人々のリサイクルへの関  
心を高めるように見えるかもしれないが、一

方で、ゴミの不法投棄を増やすなど、市民の社会倫理を低下させるような面もある。日本では、粗大ゴミの有料化から、道路や山や河原に不法投棄されたゴミがあふれかえっている。ゴミが有料になったら、その負担に耐えられない。家庭から不法に投棄される一般ゴミが、町のあちこちにあふれかえることだろう。それでは自然環境も社会環境も、さらに悪化させることになる。それよりもむしろ、再生可能な資源ゴミを、消費者が企業に売れるようにしたらどうだろう。もちろん、利益と呼べるほどの売値で捨てられるわけではないとして、も、リサイクルに貢献しつつキャッシュバックも得られれば、市民は進んでゴミの分別をするようになるはずだ。

一般消費者向けの商品製造に携わる企業には、リサイクル可能な商品開発の努力を求め、市民には資源ゴミを進んで売るようにさせる。これでリサイクルは促進していくだろう。

。、